

ゲスト

6

栄

琦 (Supplier Manager, Global Purchasing, Xerox Corporation)

7年経っても心に残る教授の生徒への想い

－夢への道－

*司会：

プログラムを変更しまして、ご報告いただきますのはゼロックスコーポレーション、グローバル購買部、サプライマネージャーのロン・チ様です。それでは、ロン・チ様、よろしくお願いいたします。

皆さん、こんにちは。今ご紹介いただきましたロン・チです。少しでも自己紹介させていただきます。私、中国の上海の出身で、大学の時から日本へ来まして、2008年に早稲田大学の国際教養学部を卒業し、その後、アメリカの大学院に進学しました。院卒の後、アメリカの現地で就職をしまして、去年の11月に日本の調達部門に異動して、今は日本で働いております。

本日の報告会のポスターに一番大きく書いてあるのが夢です。モチベーションは私たちの夢に向かって邁進するために不可欠なものでありますが、私、自分の経験と考えを話す前に、モチベーションという言葉で私自身の理解をまず話したいと思います。最初に2つのケースを見てみたいと思います。1993年にマイクロソフトは百科事典のプロジェクトを始め、そのプロジェクトのためにさまざまな分野の専門家を雇い、また優秀な経営陣をそろえました。その10年後、2001年にまったく関係ない会社なんですけど、インターネットベースの百科事典を設立され、マイクロソフトのプロジェクトとまったく違い、記事はすべてボランティアによって書かれます。

その2つのプロジェクトを見て、どちらの方が成功するプロジェクトだと思いますか。1の方だと思う方、手を上げてみてください。2の方だと思う方は？ありがとうございます。そうですね、結果から見ますと、マイクロソフトの百科事典、エンカルタと知られていますが、2009年をもってソフトの販売を終了し、11年にアンライフの運営も終了しました。その一方、ウィキペディアの方は今現在世界中誰でも利用できる最大のフリー百科事典でございます。それはなぜですか。なぜ、毎月相当な給料を受けてる専門家よりも多くの時間と精力を百科事典に充てているのでしょうか。

簡単に言いますと、マイクロソフトの従業員たちは給料をもらい、ただ仕事をしていただけです。その一方、ボランティアたちは自分の趣味があって、他の人々に知識と情報を共有したいという意欲、それと社会に貢献する願望があるから、たくさんの項目に執筆することができました。モチベーションは自分の中にこそあるものです。さっき、ボランティアの方々の行動から、人間は自分の自体性を基礎とする熱意をもって行うタスクや仕事にこそ、長く継続的に努力を重ねることができると教えてくれました。さっきスタント先生の発表でも見せてくれたマズローの自己実現論は皆様によく知られていると思いますが、簡単に言いますと、私たちは基本的なニーズが満たされる上で、誰でも自分らしい生活をしたい、新しいことを学びたい、創造したい。それに自分自身をよりよいものに向上する、さらに世界をよくする意欲を誰でも持っているとは私は信じます。それこそ、私たちのモチベーションです。

本日もこちらでスタント先生の授業の経験や、スタント先生と接することによって自分に与えた影響と自分の経験を話したいと思ったのは、先生は学生時代の私にとって大学に対するモチベーションを引き出してくれた恩師だったからです。その当時のモチベーションを保つことによって、現在の仕事に対する、

そして人生に対する心のあり様が形づくられたのです。最初にスタント先生に会ったのは2年生の時、先生のモチベーションと教育の授業を取ったときでした。先生は単なる教えることではなく、学生たちを育てようとしてくださいました。他の授業とは違い、スタント先生の授業では研究する課題とかレポートの内容などは選択する自主性を私たち学生に与えてくださいました。勉強の自主性を与えられた以上、真剣に勉強することを考えなければいけませんでした。それは簡単ではありませんが、自分が趣味を持つものを見つける機会にもなりました。それでだんだんクラスを面白いと感じ、自分のモチベーションを引き出してくれるきっかけにもなりました。

スタント先生は、すばらしい授業をしていく中で、教科書だけで伝えることができないであろう勉強に対する正しい姿勢、困難に直面する勇敢な姿、人間としてのあり方など、本来私たちが学生がもっと真剣に考えなければいけない大切なことを考えさせてくれました。

学期を通して先生個人の経験も知り、先生が経験なさった困難、そして本日の成功、または、どんな状況でも諦めない精神は、先生の成功をもたらしてくれたものであり、私はその経験談に大きな影響を受けました。私も先生のように強く、勇敢に生きていきたいと強く思っています。先生は私にとって教授だけではなく、私の心の師、そしてロールモデルでもあります。大学を卒業した後でもスタント先生と連絡をとり続けています。

先生が話を聞かせてくださる度に、その思い出が新たになります。先生から学んだこと、3つ簡単にまとめさせていただきました。まず、人生には無駄なことはない、自分の努力を信じましょう。それはよく言われますが、私自らの経験を振り返ってみるとそのとおりだと思います。学生たちはよく何をしたいのかわからないからやる気が出ないと言いますが、若い時に何をしたいのか明白に把握できないのはよくあることだと思います。夢というのは、生まれつき持っているわけではないからです。いろんな勉学や経験によって、自ら見つけるものです。最終的に夢がまだ明確にわからなくても、今取り組んでいることで小さな目標を設定し、それに努力を向ければ良いと思います。それによって得た経験と知識は最終的に大きな夢につながります。

例えば学校で勉強する、文学や数学の理解をすることを通じて、社会人としてジャーナリストや会計士になるという選択肢が生まれるのです。それに、入社する際、誰も平の社員からスタートします。そこで基本の仕事や組織上のオペレーションを理解することによって、管理職に昇進する際、よりよいマネージャーになれるのです。

努力というのはいつどこかで報われるのかわかりませんが、いつかどこかでそれは報われます。努力が報われる唯一の方法は、努力を継続することしかあり得ないです。それは大学の時、スタント先生が教えてくれたことです。私はつらい時があると、その言葉を思い出します。

その2、困難を恐れなくて、むしろ歓迎しましょう。困難は実に人生の大切な贈物です。それは私の前に発表した方々も同じようなことを言っていましたが、私の自分の経験から言いますと、大学卒業と大学院に入学する間、実は1年間のブランクがありました。経済上の理由で進学がすぐできなかったのですが、その1年間、私は日本で塾講師として働きました。その時、私はスタント先生に教わった目標が明確になるとモチベーションが上がるという考えに基づいて、授業前後の何気ない会話の中でも、意識をして生徒たちに目標などについて話をさせ、考える機会を持たせました。今でもその当時の生徒たちとやりとりを続けていますが、何年たっても記憶に残るほど影響を与えることができたのも、やる気を科学的に分析したスタントメソッドの効果だと思います。

その当時は私にとって次の年はどうなるのかまったくわからなく、それが人生の中で一番困難な時期だ

と思っていましたが、今振り返ってみますと、塾講師の経験は本当によかったと思います。この経験があったからこそ、今の自分がいるとようやくわかりました。その1年間の経験があって、教育を受けられる機会の大切さを痛感し、最悪の時、より頑張れるようになりました。この経験から、経済的な安定が大事だと痛感していたため、大学院を卒業するかなり前から積極的に就活を初め、今の仕事を決めました。また、最も重要なのは、その経験によって教えることが好きな自分を発見できました。今は必要な実務経験を蓄積した上で、いつか教育に専念しようと心に決めています。順境も逆境も大切な経験ですので、努力を続ければ、自分の夢につながります。

その3、自分の夢を探し続け、追い続けましょう。私たちはそれぞれ自分の夢を持っています。それに、人生によって、人生の段階によって違う目標を持っていますが、短期的な目標や長期的な夢は人生で同じ役割を持っています。それは日々の努力を支えてくれることです。本当に好きなことを見つける、素晴らしいと信じる仕事をするとは、自分のモチベーションを引き出す日々の努力を続けられ、より大きな目標を達成するために避けて通れない道です。スタント先生は工学、医学、薬学の成功に止まらず、教育学の博士号を取得し、今、スタントメソッドの教育法を確立しました。それは先生が自分の夢を探し続け、努力し続けた成果です。私も今の会社で働き始めて2年たちますが、他の会社の人々に出会い、コミュニケーションを通じて、いろんな企業文化、さまざまな業務スタイルを見ながら、組織行動論や人材教育に学びたいと思っています。その夢は何年も何十年もかかるかもしれませんが、私は諦めません。

最後に言いたいのは、自分の努力を信じてください。それは必ず自分のためになる経験をもたらししてくれます。すべての経験を大切に、自分の夢を見つけてください。どんな状況があっても夢を忘れず、それによってモチベーションを保つことができます。内発的な動機づけによって継続的に努力することができます。努力によって、自分が進んでいきたい道を自ら見つけ出し、一步一步歩みを進めていきましょう。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

*** 司会 :**

ありがとうございました。